

埼玉県退職校長会 会報

題字・石田孝作
第178号
令和5年4月

全国学力テストに思う

埼玉県退職校長会副会長 加々美 健一



私が最初に全国学力テスト(以下学テ)に出会ったのは昭和36年、中学2年の時である。昔のことであるがこの時のことはよく覚えている。学テ・地域間の競争の過熱化などにより、大騒動になったからである。その後この学テは数年で中止となったが、40年以上の歳月を経て復活した。しばらく前から、ゆとり教育による学力低下論争が活発化していたからである。この復活した学テが私にとっての二回目の出会いであり、平成19年、校長最後の年であった。

この時も実施前から大きな話題となっていたので、過去の騒動を知る私は、緊張しながら当日を迎えた。そしてテストが無事に終了したところで一息入れ、問題を一瞥して驚いた。国語B、算数B共にかなり難しいのである。問題が長文で構成され、記述式の問題が多数取り入れられていた。私は、この学テの問題はOECD(経済協力開発機構)のPIISA(国際学習到達度調査)の影響を受けていると直感した。PIISAは、高校生対象であるので単純に比較できないが、傾向としては類似していると思った。学テの目的は児童生徒の学力等を把握・分析し、その後の教育施策や教育指導の改善等に役立てることである。教育現場に携わった者にとっては、特に傍点の部分に注目したい。この学テには、変化の著しい国際社会から「これからはこういうことについて考

- 1 頭言
 - 2 報告
 - 3 会報
 - 10 生きる
 - 11 総案内
 - 17 一人一言
 - 18 物故
 - 19 再
 - 20 後
- 巻頭言
理事会
定期総会
一人一言
長寿会
校長退職後の
校就職・待遇
調査文芸

え、応えていく人間を育てなければならぬですよ」という学習指導法改善の強いメッセージが含まれていると思う。

学習指導要領は、各教科等の目標や大まかな教育内容を羅列しているだけで、学習指

秩父で賢治を想う

秩父支部長 木村 英一



○霧晴れぬ分かれて乗れる
三台の ガタ馬車は行く
山岨のみち

宮沢賢治が赤平川上流の皆本沢へ地層の観察に向かう時の短歌です。小鹿野町三山の古鷹神社にこの歌碑が立てられ、その揮毫をしました。

賢治は、大正5年9月盛岡高等農林学校2年生の20歳の時、教授の引率で級友たちと

導方法については触れていない。しかし、学テには出題される問題そのものに、学習指導法改善のためのヒントが多数含まれているのである。本会の会則には、「(略)教育尊重の実をあげ、埼玉県教育の振興に寄与することを目的とする」とある。私たちは今後とも学テに関心を持ち続け、それぞれの立場に応じて、各学校における学習指導法改善の取組状況を温かい目で見守っていききたいものである。

年立てられました。賢治の宿泊した寿旅館は、観光交流館として整備され、「雨ニモマケズ」の詩碑と町の夕方の様子をうたった歌碑があります。また、旅館であった時の館主の日記帳が見つかり、賢治一行が宿泊したことが、裏付けられました。その日記や、賢治が友に宛てたハガキの消印から判かっています。展示もされています。交流館には、飲食店が併設され、食事をしながら休憩できます。賢治らは、5日に赤平川のさらに上流にある皆本沢の地層を観察しています。そして、三峯神社へ向かい、神社に宿泊して、6日には下山し、秩父へ向かいました。秩父では、橋立鍾乳洞や武甲山の石灰採石場を訪れたのではと推測されています。長瀬の野上駅や寄居の正喜橋近くの荒川岸にも歌碑があります。

歌碑の短歌については、訪れてその内容と地域の様子とを観察しながら、味わってみてください。この号が出る頃には、気候も良くなりドライブも最適です。賢治の足跡を辿り、文学作品を読み直す切っ掛け作り

にしてほしいと思います。